

令和8年（2026年）1月14日外部評価実施

服部地域包括支援センター（中西部圏域）

## 「評価結果の概要」

### センターが把握している圏域の特徴

#### 【圏域の人口等】

圏域人口：55,586人  
高齢者人口：14,792人  
高齢化率：26.61%

#### 【圏域の地域特性】

服部圏域は豊中市の中西部に位置しており、豊島、中豊島、豊島北、豊島西、原田の5小学校区で構成されています。公共交通機関としては阪急バスの他、阪急宝塚線の服部天神駅、曾根駅が最寄り駅となります。曾根駅前の大型スーパーが閉店しましたが、曾根駅下に一店舗スーパーがあること、近隣に安価なスーパーが数店あるため、あまり不便さはないようです。曾根駅西側の原田地区は急坂も多く、介護が必要な状況になると、生活上の負担感も増えます。

服部天神駅周辺はほぼ平地で、新旧多数の商店も活気があり、日中も人の流れは多い地区です。駅前にロータリーを整備しており、完成するとタクシーが利用しやすくなることで高齢者にとっては利便性の高い駅となりそうです。他方で古い文化住宅も多く、高齢世帯、単身世帯も多い地域です。

阪急宝塚線から離れている豊島西地区、原田地区では、空港南部地域で工場が多く、スーパーマーケットはなく、個人商店が数か所だけです。

医療機関も少なく、交通の便も不便です。圏域全体として、賃貸住宅（アパート・文化住宅）で暮らす高齢者も多く、建て替えなど、住まいに関する困りごとも多い圏域でもあります。

#### 【医療・介護支援】

中西部では医療機関や介護保険事業所が駅前中心に多くありますが、豊島西地区は少なく、地区によっての偏りが強くみられます。

## センターの取組方針や特徴

### 【センターの運営方針】

3職種が密に情報共有、連携をとり、相談支援にあたっています。運営法人が精神科病院のため認知症、精神疾患、発達障害の方への対応に経験が多いことも強みと考え、困難事例にも迅速かつ継続的に取り組んでいます。また、当センターがオレンジチームを運営していることや、同法人に認知症疾患医療センターがあるため連携がとりやすく、利用者や家族へ迅速な対応を行うことができます。品質、環境についてISO認証を取得しており、提供サービスや教育については常にPDCAを回しながら業務に取り組んでいます。

### 【特に力を入れて活動している点】

地域教室の参加者を増やす取り組みを行いました。令和6年度までは「認知症予防」をテーマに認知症に関する講義、間違い探し、回想法などをすることが多かったのですが、今年度は「介護予防」をテーマに“楽しく”学び、体を動かすことを意識して内容を工夫しました。クイズや講義には季節行事や時事ネタを取り入れ、外部講師に医師や臨床検査技師、栄養士などの専門家を呼ぶなどバリエーションを増やしました。その結果、昨年の参加人数が平均9.1人でしたが、今年度は平均18.6人となりました。

### 【活動の中での課題やその解決策】

課題：

アンケートから参加した経緯やニーズを客観的に把握しにくい状況があります。

解決策：

回答しやすいアンケート内容に変更します。

## 総評

### 【特徴的な取組内容】

- ① オレンジカフェには、作業療法士や精神保健福祉士の参加によって、専門的な知識や相談等の対応が行われています。当事者と家族と一緒に参加できる場として内容が充実しており、当事者が楽しみ、家族等が安心できる場となっています。
- ② 圏域内の社会資源を活用した「なんでも相談会」を継続することによって、地域との関係性構築と、潜在ニーズの把握につなげています。

### 【さらなる質の向上の余地がある点】

- ① 今年度一定の成果があった当事者・家族一体型のオレンジカフェの普及を期待します。